

献呈の辞

法曹養成研究科長 上杉雅央

駒澤法曹第 21 号は、令和 6 年 3 月 31 日をもって定年退職された青野博之先生、日笠完治先生のお二人の退職記念号と題して発刊することになりました。

青野先生、日笠先生のお二人は、それぞれの専門分野の研究のみならず、平成 16 年の開校当初から、当法科大学院で教鞭をとられ、法曹養成に尽力されてきました。青野先生は民法の担当教員として、日笠先生は憲法の担当教員として、定年退職に至るまで、親密に学生に接し、熱心に学生の指導にあたられてきました。お二人の教育姿勢は、当法科大学院の「人に寄り添い、社会と繋がる法曹」の養成という教育理念に適うものであり、この教育理念を実務において体现する駒澤大学出身の法曹を多く輩出することに貢献されてきました。お二人の教えを受けて卒業した「駒澤法曹」は、現在多くの分野において活躍しています。また、法曹資格を取得しなかった卒業生においても、お二人の薫陶を受けたことが、それぞれの社会生活において幾多の力になっています。

青野先生は、定年退職される直前まで、専攻主任や研究科長という役職を務められ、ことに法科大学院が募集停止となる大変な時期に、研究科の各教員の意見を聞いて集約し大学当局に伝えることや、募集停止が決定したのち難しい舵取りに労力を尽くされてきました。日笠先生は、研究科長を務められたのち、図書館長や副学長の役職を務められ、法科大学院のみにならず駒澤大学全体の教学環境の向上に力を注がれてきました。

お二人が定年退職されたのちも、民法、憲法においては、業務委託の形式で引き続き授業のご担当をいただいております。お二人が当法科大学院に欠かせない先生方であることは間違いのないことです。

当法科大学院は、あと数年で在校生がいなくなる見込みであり、約 20 年の歴史の幕を閉じることになります。全ての在校生が卒業するまで、在籍している学生のための教育に全力を尽くすことが重要であるとともに、当法科大学院がなくなったのちも、駒澤大学出身の法曹を輩出するための新たな取り組みが重要になってくると思われます。現在当法科大学院に在籍している各教員のみならず、お二人の力もお貸しいただきながら、当法科大学院としての最後の使命を果たすとともに、新たな法曹養成の道筋が作ることができればよいと考えております。また、今後のお二人の学問研究がよりいっそう深められることを祈念しております。長年にわたるご尽力誠にありがとうございました。